
巨人ダッタ君

cokoly

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

巨人ダッタ君

【Nコード】

N1951D

【作者名】

kokoly

【あらすじ】

大きなダッタ君と小さなぼくは仲良しで、将来のことなんか話したりする。

ダッタ君は、とても大きい。

ダッタ君より大きい人をぼくは見たことがない。

ダッタ君と話をするときには、みんな顔をずっと上の方に向けて話さなければいけない。

ぼくはダッタ君とよく話をするから、しょっちゅう首が痛くなってしまう。

ダッタ君はやさしいので、ぼくが首を痛そうにしていると、その大きな体をググーッと折り曲げて、ぼくの顔の高さに合わせようとしてくれる。

でも、ぼくはクラスでも一番前に並ぶくらい背が小さいから、ダッタ君がそんなふうに気をつかってくれても、やっぱりすこし上を見上げて話をすることになるんだ。

「ダッタ君は、大きくなったら何になりたい？」

「ぼくはこれ以上大きくなりたくないよ」

「そうなの？　ぼくは小さいからちよつとうらやましいけどなあ」

「ぼくはケンジ君の方がうらやましいよ」

「でも、チビチビって言われるよ。大きい方がいいよ」

「ぼくは大きいだけで何もできないってパパに言われるんだ。そりゃちよつと動きはにぶいかも知れないけど、そこまでひどくはないつもりなんだ」

「ダッタ君はそんなにひどいなんてことないよ。誰もとどかない所に手がとどくしさ」

ぼくがそう言うと、ダッタ君はしゃがみ込んだまますこし上を向いた。

「そうかな」

「そうだよ」

そしてダッタ君は何回かうんうんとうなずいて、大きく口をまげ

て笑った。

「それで、さっきの話だけどさ」

「何だっけ？」

「ダツタ君は大きくなったら何になりたい？」

「ぼくはこれ以上大きくなりたくないよ」

「そうじゃなくって、しょうらいの夢とか、仕事とか」

ダツタ君はしばらくぼくの顔を見て「考えたことないな」と言っ
た。

「ケンジ君は考えたことあるのかな」

「ぼくはね、柔道の選手になりたいんだ」

「ジュウドウ？」

「うん。それでね、自分より大きな人を投げ飛ばすようになるんだ」

「そんなことできるの？」

「そうだよ。そういうのを柔よく剛を制すって言うんだよ」

「そうか。じゃあケンジ君は強くなるんだね」

「うん。強くなりたいなあ」

「ぼ、ぼくも投げられちゃうかな」

「ぼくはダツタ君の顔を見上げた。

「ダツタ君、ちょっと立ってみてよ」

ダツタ君が立ち上がると、ダツタ君の顔は思っていたよりもずつ
とずっと高い所にあった。

ぼくは思わずため息をついた。

「ダツタ君は、ほんとうに背が高いねえ」

「で、でも、投げ飛ばすんでしょ？」

「ダツタ君は投げないよ」

「どうして？」

「だって、ともだちだもん」

「そうか。ケンジ君がやるならぼくも柔道やろうかな」

「ダメだよ」

「どうして？」

「ほんとダツタ君が試合するときは投げ飛ばさなきゃいけないよ」

ダツタ君は、はっとして首を振った。

そしてまたしゃがみこんだ。

「でも、いいなあ」

「ダツタ君はバスケットの選手がいいよ。ぜったい活躍できるよ」

「そうかな」

「バスケットは背が高い人に向いてるんだ」

「活躍できるかな」

「ダツタ君ならだいじょうぶだよ」

「じゃあ、そうしようかな」

ぼくはダツタ君を投げ飛ばすのはちょっとむずかしいと思っていたから、正直言ってほっとした。

でももしぼくがダツタ君を投げ飛ばしたら、ダツタ君は傷ついてしまうと思うんだ。

ダツタ君はけっこう繊細なので、ぼくは意外と気をつけている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1951d/>

巨人ダッタ君

2010年11月11日19時37分発行